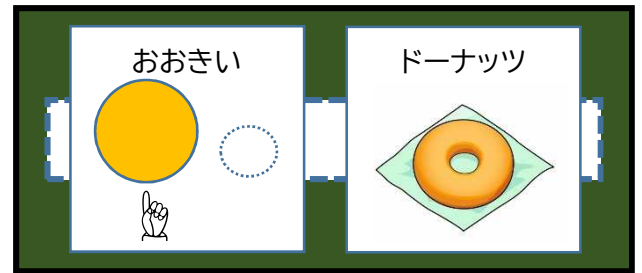
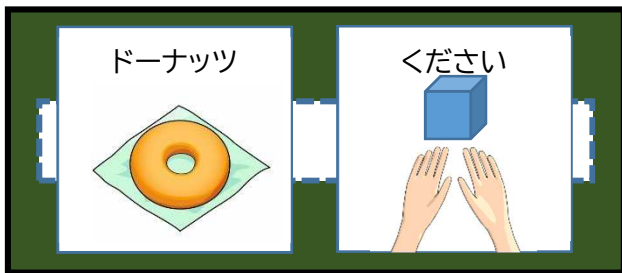


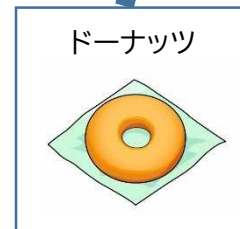
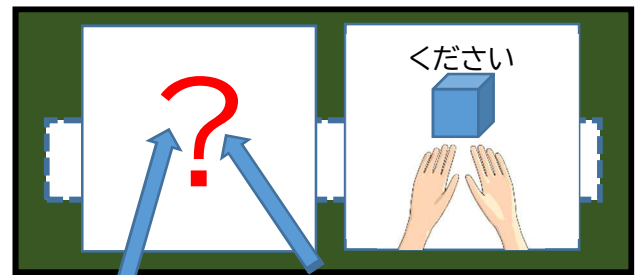
## PECS フェイズ④：2語連鎖（要求文・叙述文・属性）



「離れた場所にあるカードを取って、離れたところにいる人にもっていくことができるようになったら、フェーズ4に進んでいきます。フェーズ4は文を作る段階です。1つのカードによってのコミュニケーションは例えば、「ラムネ」や「ラーメン」といった単独の要求を伝えることはできましたが、例えばそれが「これ、ラムネ？」という疑問文の意味合いのカードなのか、「ラムネ食べたね」という過去を表すの意味合いのカードなのか、「これは美味しくないラムネ！」と不満を表すの意味合いのカードなのかは分かりません。2語連鎖=2つのカードを合わせて文を作ることができるということは、「伝えられる世界を広げる」ということでもあります。

「このレッスンの順番は以下の通りです。」

- ①「ください」のカードを貼っておいた文ストリップに、子どもが欲しい物のカードを貼らせる。（もちろん子どものとても興味ある物が望ましい。というか、それ以外無いでしょ。）
- ②文ストリップ全体と物を交換する。（グダグダ説明しない。手早く渡す。「これ、めんどくさい」と思わせない。）
- ③一つ一つのカードを共同注視して確認しながら交換する。（いやあ、コレ便利でさあ…みたいなニュアンスで。）
- ④学習が進んできたら、「○○を」「ください」と2つのカードを分解して、伝える。
- ⑤さらに学習が進んだら「属性」について、子どもが興味のある物を使って学習を進める（ドリル的にやっても効果は見込めない）



-属性を理解するということ-

「りんご」や「ばなな」などをマッチングする場合は見た目や味などがほぼ一緒の物をマッチングすることになります。例えば「やさい」とか「どうぶつ」とかの理解は「りんご & ばなな & みかん = 『やさい』という属性」とか、「犬 & 猫 & ブタ = 『どうぶつ』という属性」の理解になります。

-「色」を理解しているということはどういうことか？-

上の「属性を理解するということ」に関連してですが、「色」を教えるときに、カードを使って教えると、そのカードを使ったときのみ「色が分かる」という理解の到達点があります。注意が必要なのは、「色が分かる」という段階は幾つかに場合分けができて、①カードとカードのマッチングとして分かる。②音声言語とカードの対応で分かる。③例えば「赤」というカテゴリーがどんなものを使って分かる…などの場合があります。